

温 泉 分 析 書

1 申 請 者

氏名：了 山

住所：岐阜県可児郡御嵩町次月 3420-7

2 源泉名および湧出地

鬼岩温泉 次月源泉 岐阜県可児郡御嵩町次月字猿林 3426 番地

3 湧出地における調査および試験成績

(イ) 調査および試験者：株式会社 総合保健センター 加納 芳直

(ロ) 調査および試験年月日：平成 20 年 12 月 17 日 (ハ) 泉温：18.5℃ (気温 8.5℃)

(ニ) 湧出量：54 L/min (動力揚湯)

(ホ) 知覚的試験：無色、透明、無臭 2 時間放置後の変化なし

(ヘ) pH 値：9.0 (18℃) (ト) ラドン：196.2×10⁻¹⁰ Ci/kg

4 試験室における試験成績

(イ) 試験者：株式会社 総合保健センター 加納 芳直

(ロ) 分析終了の年月日：平成 21 年 1 月 7 日

(ハ) 知覚的試験：無色、透明、無臭 (採水後 24 時間)

(ニ) pH 値：8.8(19℃) (ホ) 蒸発残留物：140 g/kg (105℃) (ヘ) 密度：1.00 (20℃)

(ヘ) 電気伝導率：18.4 mS/m

5 試料 1kg 中の成分：分量および組成

(イ) 陽イオン成分	ミリグラム (mg)	ミリナル (mval)	ミリナル% (mval%)	(ロ) 陰イオン成分	ミリグラム (mg)	ミリナル (mval)	ミリナル% (mval%)
ナトリウムイオン(Na ⁺)	34.4	1.50	78.95	フッ素イオン(F ⁻)	6.9	0.36	18.95
カリウムイオン(K ⁺)	0.3	0.01	0.53	塩素イオン(Cl ⁻)	6.6	0.19	10.00
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	0.1	0.01	0.53	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	7.2	0.15	7.89
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	7.7	0.38	20.00	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	61.0	1.00	52.63
				炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	6.0	0.20	10.53
陽イオンの成分 計	42.5	1.90	100.0	陰イオン成分 計	87.7	1.90	100.0

(ハ) 遊離成分

非解離成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	溶存ガス成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	34.8	0.45	遊離二酸化炭素(CO ₂)	0.0	0.00
メタホウ酸(HBO ₂)	0.5	0.01	遊離硫化水素(H ₂ S)	0.0	0.00
非解離成分 計	35.3	0.46	溶存ガス成分 計	0.0	0.00

溶存物質 (ガス性のものを除く) : 0.1655 g/kg 成分総計 : 0.1655 g/kg

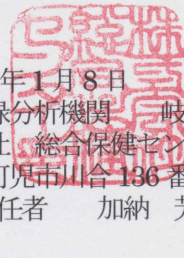
(ロ) その他微量成分

項目	mg	項目	mg	項目	mg	項目	mg
マンガンイオン (Mn ²⁺)	0.012	アルミニウム イオン(Al ³⁺)	<0.02	総ヒ素	0.002	総鉄イオン (Fe ²⁺ , Fe ³⁺)	<0.03

6 泉質

単純放射能冷鉱泉 (低張性・アルカリ性・冷鉱泉)

平成 21 年 1 月 8 日
温泉登録分析機関 岐阜県第 4 号
株式会社 総合保健センター
岐阜県可児市川合 136 番地 8
試験責任者 加納 芳直



温 泉 分 析 書 別 表

1 源泉名

鬼岩温泉 次月源泉

2 源泉所在地

岐阜県可児郡御嵩町次月字猿林 3426 番地

3 温泉分析申請者

了 山 岐阜県可児郡御嵩町次月 3420-7

4 泉 質

単純放射能冷鉱泉（低張性-アルカリ性-冷鉱泉）

5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。

【浴用の禁忌症】

1 一般的禁忌症

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

2 泉質別禁忌症

該当無し

【浴用の適応症】

1 療養泉の一般的適応症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進

2 泉質別適応症

痛風、動脈硬化症、高血圧症、慢性胆嚢炎、胆石症、慢性皮膚病、慢性婦人病

【浴用上の注意事項】

- 1 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を 1 日当たり 1 回程度とすること。その後は、1 日当たり 2 回ないし 3 回までとすること。
- 2 温泉療養のための必要期間は、おおむね 2 ないし 3 週間を適当とすること。
- 3 温泉療養開始後おおむね 3 日ないし 1 週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）が現われることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- 4 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - ①入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは 3 分ないし 10 分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 - ②入浴中は、運動浴の場合は別として一般的には安静を守る。
 - ③入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない（湯ただれを起しやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）。
 - ④入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - ⑤次の疾患については、原則として高温浴（42℃以上）を禁忌とする。
 - イ 高度の動脈硬化症
 - ロ 高血圧症
 - ハ 心臓病
 - ⑥熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 - ⑦食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - ⑧飲酒しての入浴は特に注意する。